



復刊第92号  
題字吉岡弥生

### 思いのまま



例年になく異常天候が続いており、台風や豪雨の被害にあわれた会員の方はごさいませんかお伺い申し上げますとともに、災害を被った先生方には心からお見舞申し上げます。

去る五月の総会后、日、未だ浅く、第一回目の理事会が開かれ各分担がきまるところで、いよいよ新しい目標にむかって出発するところをごさいませ。

想いおこしますと、昭和二十七年晩春、当時東京女子医大に隣接した場所に戦災にあわれた吉岡邸がありました。そのお宅の和室の間で、吉岡弥生先生のご発言で竹内茂代、杉田鶴子、佐藤やい、大村ひさる、福田幹、龍知恵子、中川富士、真鍋

### 副会長 小俣喜久子

昌子、森千鶴の諸先生とともに集まり、日本女医学会再興のための準備会をいたしました。その席でよく、「この若い人」と吉岡先生に呼ばれたことを思い出します。また先輩の先生方がたいへん意欲的な協調性のある態度で、会員を一人でも多く募るための対策など十数回の準備会を開きました。昭和二十九年日本女医学会がいよいよ再発足いたしますやいなや、全国に支部を設置するべく佐藤やい、大村ひさる先生が主となり、私もお供で各支部会に応援にまいりました。当時副会長であった佐藤やい先生、庶務常任理事の大村ひさる先生のご活躍はめざましく、地方でのご挨拶も来賓の名士のそれとは比較にならぬほどご立派でございますし

た。若輩の私はただ、感心して拝聴していた思い出がございます。爾来、日本女医学会本部は至誠会本部の一室を拝借し、至誠会本部が新しく大きくなるとともに日本女医学会本部も大きな部屋に移転し、最初は一階の一隅に、ついで新築された木造モルタルの二階に、そして最後は鉄筋四階建ビルの四階を拝借して昨年春まで住居の方は誠に安易に至誠会のお世話になっていたのでございます。

昭和五十六年四月、ようやく、ささやかながら日本女医学会財政の許容範囲の事務所を購入することができました。戦後、日本女医学会再興のため、尽力下さいました吉岡弥生先生をはじめ、大部分の先生方はすでに故人となられました。が、「若い人」と呼ばれた私も当時の先生方の知命・耳順を過ぎてしまいました。そして日本女医学会再発足後約三十年近くになった現在、大望適って狭いながらも会員の力で求めた事務所で、久しぶりに三十八人という多数の役員を擁した理事会が開催されたことは日本女医学会として、誠に同慶に存じます。

これから新装なった日本女医学会本部で新理事一同、心を一新して会の運営に努力してまいりたいと存じます。何卒先生方には、歴史に残るような偉大な大先輩に続いて、日本女医学会のため会員の一人一人が何をなすべきかをお考えくださって、改めて会員の先生方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### もくじ

思いのまま.....	小俣喜久子 (1)
各部だより.....	
研修会の予告(学術部).....	森川みどり (2)
雑感(事業部).....	川島富久子 (2)
近況報告(渉外部・国内の部).....	柳瀬 路子 (2)
近況報告(渉外部・国外の部).....	佐野アヤ子 (3)
昭和57年度定時総会について(予告).....	(3)
Circular Letter No.68について.....	山崎 倫子 (3)
支部近況.....	
長崎水害より三カ月(長崎支部).....	後藤すみ子 (4)
伊豆の秋(愛知支部).....	小倉 陽子 (4)
昭和56年度日本女医学会会員学位取得者一覧.....	(5)
忙中閑.....	
南画と日高先生.....	井上 柳子 (6)
花と絵と私.....	日高 歐子 (7)
叙勲のよろこび.....	(6)
常任理事会議事録.....	(7)
会員動静.....	(8)
編集後記.....	(8)



# 各部だより

## 研修会の予告

学術部 森川みどり

今年度研修会が、左記の通り開催予定でございますから、皆さまには、万障お繰り合わせの上、ぜひご来聴賜わりますよう、ご案内申し上げます。詳細につきましては、追って別便にてお報せ致します。

- 一、日時 昭和58年2月27日
- 一、会場 東京都新宿・京王プラザホテル
- 一、演題および演者(予定)
- \*「北原白秋の色の世界」

名古屋大学教授 市川 宏

\*「医療をめぐる諸問題」 日本医師会常任理事 佐野 正人

\*吉岡弥生賞受賞者業績発表 「血液型不適合妊娠について」 堀口 文

## 雑感

事業部 川島富久子

日本女医学会、昭和五十六年度の事業の一つ公衆衛生事業として、愛知県支部の、婦人と子供の健康相談の事業に対し、助成金が贈られた。その活動内容を紹介しますと、婦人と子供を対象にした無料の健康相

談で、科目は眼科、精神科、内科、整形外科、小児科、産婦人科、皮膚科の七科目、毎月第三月曜日(八月休み)の午後二時から四時まで、愛知県の女医会員が各専門科目を交替に分担し、正しい治療のための助言

や、患者および家族のもつ不安、不満を解消するなどに当たっている。三分診察として、ゆとりのない医療の「そしり」をうけている現今、毎年アンケートによる追跡調査によって反響を解析し、地域医療に結びつくユニークな事業として評価され日本公衆衛生協会会長賞、その他の賞を得ている。

相談者数は毎回平均四十人前後、昭和四十年一月に発足以来十五年以上を経て、来談者は一万人を突破する。

業務の運用は女医学会の理事数人がたずさわり、佐分 妙先生が永年ハウトを勤められて活動を続けている。こうした活動のできるのは、森川みどり支部長を中心とした会員のチームワークの賜物である。

去る相談日の事、私が精神科の担当で、会場である愛知県医師会館へ出向いた折、エレベーターで久方ぶりにお逢いしたドクターに、相談日に出かける旨を告げると、よくもマアア続いていることと感嘆された。どんな事業についても言える事と思うが、永く続く過程においては、マンネリ化する悩みや、これではいかという不安におそれることがある。しかしそれに耐え、熱意を持ち続けていることにより、好転するチャンスを得たり、時には斬新なアイデアが湧き、それなりに意義が生じてくるものである。

日本女医学会も本年、新執行部が発足して、最初の日本女医学会誌を拝読

し、新役員の登場により、会の若返りを感じ、またトップの先生方の国際的な活躍が目立ち躍動する刺激を与えられるように感じた。事業部においても従来の仕事を続け、さらに改善する時期が到来しているよう

## 近況報告

山崎副会長国連へ派遣さる

渉外部/国内の部 柳瀬 路子

前号でも触れましたが、かねて国連NGO国内婦人委員会から推薦されていた表題の件がようやく閣議決定を見、山崎姉は第三十七回国連総会へ政府代表として出席することになりました。九月十七日発令、十月七日赴任という慌しさで歡送会を開く暇もなく、九月の理事会の席上会長のご発案により理事が現金してお餞別を差し上げた次第です。

世界の視聴を集めている国連の檯舞台に、わが女医学会から代表を送る事ができましたのは晴れがましい氣持です。ことに昨今の議題は、われわれの関係する分野であり、女性のタツチすべき分野にひろがり、まさに女医にうってつけです。姉の日頃の識見がいかにたくましく発揮される事を期待しております。しかし他方開業医の姉が三ヶ月間留守にされる個人的デメリットは、これまた私たちが一番良く判っている事であり、ご夫君のよほどの理解とご本人の勇

氣むしろ使命感がなければできませんのではありません。われわれは姉の決心に感謝して成果を期待しております。九月三十日、推薦母体である国連NGO国内婦人委員会の歡送会が催されました。席上外務省野口企画調整課長の説明によりまずと、山崎姉の出席されるのは第三委員会です。マは人権・国連婦人の十年・国際青年・国際児童年・国際高齢者年・国際障害者年・難民・薬物取引に関する問題などだそうです。強力にご推薦下さった藤田たき委員長も、ご挨拶で「最高の人を得た」と期待しておられました。今までの代表をみますと労働省の婦人少年局長や大学教授などを経た方が多いようで、山崎姉のような純民間派の例はなく、姉は年齢からも申し分なく、専門知識も充分にあり、かつ開業医として人生経験も豊かであって、しかも六カ国語を操れる人というところから

に探せるものでもないでしょうから、まさにその通りかもしれません。三カ月の事ですから余り気張らず、直接の成果をあげる事よりも長い目で友人をたくさん作って来てほしいと私は希望しました。姉につづいて第二第三の活躍者が女医学会から多方面に出て雑多な人生を観察した片寄らない心と、真理を追求する科学者の眼で医師会以外の世界へも活躍頂きたいと思えます。

前常任理事・竹内静香姉は熱海市市会議員に当選されました。市会に留らず今後のご活躍を期待いたします。

**国際婦人年連絡会全体会報告**

九月十六日午後、参議院会館第一会議室で報告と協議があり、会后五政党の婦人議員から婦人政策を聞く

**近況報告**

渉外部／国外の部 **佐野アヤ子**

一、昭和五十六年六月二十一日～二十七日の間に国際女医会幹部役員会議出席のため、車椅子で行きました。そのときに国際女医会本部は英国に決まりましたが、未だ名誉書記の問題で決定していません。また各国の若い人々の入会を促進するように努力すること。国際女医会総会は

会が開かれた。連絡会席上の情報交換の場で優生保護法に関して母性保護医協会の立場を説明しておいた。

五政党の代表出席議員は、自由民主党石本茂、社会党田中寿美子、公明党柏原ヤス、民社党加藤綾子、共産党山中郁子の諸氏で、質問した主な項目は、(1)育児休業法案、(2)母性保護と男女雇用平等法案、(3)パートタイマー対策、(4)臨調基本答申と婦人関係対策、(5)家庭科の男女共修問題、で各党の持ち時間三十分、説明十分、質疑応答十分、計四十分の設営であったが、いずれも数字の違いくらいで基本姿勢は大同小異。各党立場説明というところで、婦人議員手を握ってこの点だけは解決しようという所はなかった。また医師に対する話題は出なかった。

(57・9・30)

二年に一度より三年に一度の方が望ましいとの意見が出た。

二、昭和五十六年十一月一日～五日まで、マニラにおいて、国際母子衛生会議に独協大学助教授堀口文氏とともに Dr. Fe del Mundo に招待されて出席しました。その際フィリピン女医会の方々と、密接に会談

し、立派な国際会議場を見せていただきました。

本年2月にニュージーランド、オーストラリアを訪問する予定でしたが、病気のため、残念ながら行けませんでした。香港、韓国、台湾にも近いうちに訪問する予定です。

三、前国際女医副会長、オランダの Dr. Verhegen および同国国際連絡書記 Dr. Abeelen がマニラ会議直前、日本を訪れるので、渉外部の柳瀬路子先生がお世話することになりました。

**Circular Letter No. 68 (1982)**

国際連絡書記 **山崎 倫子**

九月二十日サーキュラーレター68号を受け取りましたが、ほとんどが MWIA、マニラ会議に関する情報で、(一)、新事務局の移転、(二)、連絡書記への調査および報告依頼、(三)、次期一九八二～八四年の役員

候補者氏名等です(連絡書記報告はすでに事務局に発送済み)。(一)、(二)についてはマニラ会議の総会で議決されることですので、改めて会議後、報告として掲載します。

以上

**昭和57年度定時総会について(予告)**

57年度の総会を左記の通り開催いたします。皆さまお誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時……昭和58年5月28日(土)  
 場所……岡山市・岡山プラザホテル  
 総会・評議員会……5月28日(土)本部運営講演会……医事評論家・水野肇氏の講演懇親会……講演終了後5時頃よりの予定  
 観光……5月29日(日)

Aコース 後楽園、倉敷より鷺羽山方面  
 Bコース 後楽園、備前焼窯元、竹久夢二記念館など見学

当地岡山は交通も便利でございますので、ぜひ多数のご参加を、支部全員心よりお待ちしております。

岡山県支部長 **井口与志子**



支部近況

長崎水害より三カ月

長崎支部 後藤すみ子

昭和五十七年五月より赤坂サナミ先生のご推薦により長崎支部評議員を引き受けてしまいました。

たいした事もできないと思いますのでできるだけ努力致します。

名簿を見ますと自然退会者が多く、現在二十五名です。近いうちに女医会(長崎支部)を開催して一人でも多く再加入をおすすめしたいと考えています。

さて、長崎は七月二十三日に未曾



長崎市中央橋付近

有の豪雨に見舞われ、とくに午後九時より一時間の雨量は百五十三ミリ、また長崎市周辺の長与地区は百八十七ミリとわが国観測史上最高を記録し、長崎市を中心に県下各地に甚大な被害が発生しました。

雨はいっ止むとも知れず降り続くと、午後九時四十五分に停電し、長崎市の中心部は真暗闇。私の病院のみは非常灯のお陰で廊下と階段は明るく、日頃無駄でもつたいないと考えていましたが、この時は助かりました。

光をたよりに電話をかけた人、トイレを借りに来る人たちが一時は混雑しました。

患者では、怪我をして破傷風血清を、まむしに噛まれてまむしワクチンを注射しなければならず、日頃使わないので探すのにたいへんでした。また道路に流れてきた大きい丸太に胸を強打され呼吸困難で来られた患者には、停電中ではあり、ソーソクと懐中電灯をたよりに診療しました。その後、数日は他県からの救援に来た人たちも怪我した方々が多く、テタノブリンを試みました。

長崎周辺の女医さんの病院はお陰様でたいへん被害が少なく幸いでした。しかし二週間くらいは呆然として、被害のあまりのひどさに考えもまとまらず何をしていたののでしょうか。早くこの報告を書かねばと思いつつ文章の下手さも手伝っておそく

なりました。今村定子先生の病院は床上五十センチも浸水し、レントゲンおよびマイク口治療器二台等、水につかりました。私が修理可能とのことでした。私の病院は車庫に浸水し自動車シートの上までつかりました。他の先生方は

何ともなかったとの報告がありました。以上、皆様方にはたいへん心配をおかけ致しました。早速電話を、またお便りを頂き励まして下さいましてありがとうございます。誌上にて厚くお礼申し上げます。

伊豆の秋

愛知支部 小倉 陽子



日本女医会愛知支部 於・箱根プリンスホテル S57.9.5

中国の古書にいわく——分を安んじ以て神を養う、胃を寛ぎ気を養う、費を省き財を養う——。

神力、氣力、財力を養うための山荘、名づけて三養荘。

懸案の伊豆行きがやっと陽の目を見ました。八二年秋の愛知支部レクリエーション。

富士の麗姿を仰ぐ好天に恵まれ、新幹線三島駅から車で約四十分。伊豆長岡町に、元岩崎家の別邸として

造られた五千余坪に及ぶ庭園、その中に点在する数寄屋風の館には、高砂、松風、熊野、井筒、小督など能楽にちなんで床しい名がつけられている。手入れの行き届いた松の緑の彼方には伊豆の山々、足もとにはひとむらの桔梗の花、都会の喧噪から離れて、年来の友と芝の上で遊ぶ時、そして、こんこんと溢れるいで湯に身を浸す時、まことに三つの力を養うことの大切さが思われる。

手打そばの美味しかったこと。一夜明けて、台風の心配も飛び去った秋空のもと、伊豆箱根スカイライン、十国峠を経て、芦の湖畔のプリンスホテルへ。芦の湖産虹マスのポトワイン煮を中心にしたメニューに、ヴァン・ロゼがよく合い、食堂の丸いカーブの広い窓越しに、紅、ピンク、白のペゴニア。照葉樹林の間から静かな湖の深い色が見えて、優雅なひとときを過ごす。昨日は、日本建築と造園の粋。今日は、シックにフランス料理。今回の一泊の旅は、ゆつくりとしたスケジュールで、結果的にはよかったと思われる。三島から車で十五分くらいのところに、「ベルナル・ビュツフェ美術館」があり、一見に値することも書き添えさせていただきます。一人ではなかなかたてられないプランニングを実現に漕ぎつけることと、きめの細かい配慮とで、会員諸姉に喜んでいただくことが、われわれ福祉担当者の願いである。

昭和56年度  
日本女医会会員学位取得者一覧  
(学術部) 57, 9, 26

31名

支部	氏名	出身校	卒年	論文名
北海道	奥山悠子	北海道大	昭・47	肺サルコイドーシス患者血清の家兔腹腔滲出多核白血球およびマクロファージ走化性に及ぼす抑制効果とその意義
栃木	山崎トヨ	東女医	昭・44	深部体温計による身体各部深部温の連続監視法とその臨床的評価
栃木	渡辺千絵子	福島医	昭・48	扁平苔癬型薬疹について
茨城	塚田茂子	東邦医	昭・19	ベンゼン中毒に関する法医学的研究
足立	土屋満枝	東邦医	昭・26	カンジダ属のPGM型検出について
荒川	伊川あけみ	東女医	昭・49	多重線形回帰を用いた先天性心疾患児の発育の評価について
荒川	村田富恵	東女医	昭・50	<sup>125</sup> I-コルチゾールキットによる血中—17 $\alpha$ -hydroxyprogesterone, 21-deoxycortisol 及び cortisol の同時測定法の開発と、その臨床的応用に関する研究
板橋	疋田房子	東女医	昭・42	ファロー四徴症の皮膚紋理——ファロー四徴症およびファロー四徴症を合併する円錐動脈幹異常顔貌保有者の皮膚紋理学的研究——
品川	山口いづみ	東女医	昭・46	急性解離性大動脈瘤症例の心電図——急性期所見を中心として——
渋谷	菊池純江	東女医	昭・48	慢性肝炎患における補体価および C <sub>3</sub> , C <sub>4</sub> 蛋白量の臨床的意義
新宿	山西律子	東女医	昭・49	ヒト線維芽細胞インターフェロン点眼の実験的ウサギ角膜ヘルペスに及ぼす効果
新宿	吉岡和子	弘前大	昭・46	小人症に関する統計学的研究
台東	小野昌美	東女医	昭・53	プロラクチンの人の卵巣に対する直接作用
中野	清水泉	東女医	昭・49	Amylase Creatinine Clearance Ratio (ACCR) に関する基礎的・臨床的研究
文京	佐中真由美	東女医	昭・48	糖尿病妊婦における血小板凝集能——糖尿病性網膜症との関連——
港	西谷小枝	関西医	昭・9	保存的鼓膜閉鎖法
東女医 医学 女医	登坂正子	東女医	昭・48	心筋梗塞後心室瘤79例の臨床および冠状動脈造影所見・血行動態の対比
東女医	三浦明子	東女医	昭・48	自律神経機能検査に利用した指先容積脈波法
神奈川	尾島登志	東邦医	昭・17	胃潰瘍患者尿成分による胃潰瘍の分類と Solcoseryl 治療反応性との関係
神奈川	松井芳子	東女医	昭・48	細小肝癌における超音波所見の臨床病理学的研究
神奈川	宮崎麻知子	東女医	昭・50	Tandem hystero-graphy の有用性について——子宮頸癌放射線治療後の局所再発防止の一手段としての Tandem hystero-graphy ——
新潟	神田敬子	東邦医	昭・16	各種妊娠の中絶後にみられるトロホプラストの viability の消長について
大阪2	小山貴子	鳥取大	昭・53	低身長患者血清における成長因子(チミジン摂取促進因子)の測定
大阪10	飯田さよみ	阪大医	昭・49	ラット下垂体前葉における ACTH 作用増強因子の存在
兵庫	岡本のぶ子	神戸大	昭・44	MACROPHAGES IN THE SUBARACHNOID SPACE IN EXPERIMENTAL ALLERGIC OPTIC NEURITIS 実験的アレルギー性視神経炎におけるクモ膜下腔食細胞の動態
和歌山	井関富美子	和歌山医	昭・43	本態性高血圧における血漿 dopamine $\beta$ -hydroxyase 活性の検討
岡山	山下佐知子	日本医	昭・49	肝・胆道疾患における高比重リポ蛋白に関する研究
徳島	上村み子	東女医	昭・48	急性心筋梗塞症における血清過酸化脂質に関する研究
高地	浜崎浜子	関西医	昭・25	耳管通気音の音響学的研究
佐賀	大川弥生	久留米大	昭・53	気管支喘息における日内リズムの検討
佐賀	横須賀麗子	東女医	昭・46	頸椎X線像の研究——とくに外傷性頸部症候群を中心に——

全国医科大学71校に調査依頼し56校より回答あり。56年度学位取得者は125名で会員外の100名に勧誘状を発送し、6名の方が入会されました。

忙中閑

南画と日高先生

千代田支部 井上 柳子

空も空気もさわやか、朝夕、吹きぬげる涼風に、虫のコーラスも、冴えて、いよいよ美術の秋が訪れました。花の命は、短くて、はかないものですが、花の絵画は、鑑賞する人の心に、永遠の命と、花の薫りを、漂わせてくれます。

文人画とも言われる南画の境地に、好きな花を画題に、ひたむきに意欲をわかしている日高歐子先生の作品 二点を紹介します。毎年八月に、二越で開催される、日本医家美術展には、つねに新作を出品しておられます。最近の画風には、生き生きとした自然の詩情に、豊かさを感じをおぼえます。

人柄は、デリケートでロマンチスト、しつとりと落ち着いて、ちよつと、エキソチックなルックスですが、着物が好きで、和服姿は襟足も美しく、小粋に着こなします。いったん、筆をとると、大胆な構図の中に、筆の濃淡の力強さ、色彩、花と葉のふれあい、とても明るく暖かな絵になるのです。

今回紙上でご紹介できないのが残念ですが、竹翠会南画展に出品された「牡丹」の絵は、大好きで、ほのぼのとした香気が漂うようかごとく、花弁のピンクのほかし具合が、白のバックと調和して立体感があり、魅せられました。墨による黒一色の濃淡によって、発揮される水墨画とまたちがった、南画の魅力は、現代感覚も豊かで、素朴な美しさに、感銘をうけました。



25周年日本医家美術特別記念  
「百合」

叙勲の

よろこび

このたび、左記の先生がたが勲等に叙せられました。ここに会員の皆さまにお知らせするとともに、心よりお慶び申し上げます。

昭和56年7月

\*赤羽田鶴子(栃木支部)

東邦医・昭和8年卒

勲四等 宝冠章

昭和56年秋

\*阿部 秀世(練馬支部)

東女医・昭和7年卒

勲五等 宝冠章

\*出浦 トモ(兵庫支部)

東女医・昭和7年卒

勲五等 瑞宝章

昭和57年春

\*中西 清子(都下支部)

東女医・昭和4年卒

勲四等 瑞宝章

常任理事会議事録

日時 昭和57年7月24日

場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

三神、福永、山崎、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、橋本、丸山



第27回日本医家美術展  
「牡丹」

## 花と絵と私

千葉支部 日高 歐子

人は思いがけない時に思いがけない拾いものをするものである。

私は花を育てる事の楽しみから描く事の楽しさをも得た。

かつて私は療養生活を余儀なくされた事があった。いろいろと疲れていたのではろうか、あまり遮

二無二元気になろうという気力も失っていて、父や母を嘆かせていた模様であった。その頃の春の朝

の事である。窓辺の日射しの暖かさの中でフト思いついて、土を入

れた植木鉢を二階のベランダに上げてもらった。そして何か草花の

種を買って来てくれるようになったんだ。買って来たのはアスターだ。こ

れはどちらかといえは田舎くさい花ではあるが、春蒔きでは当時さ

してハイカラなものではなかった。種を蒔いてガラスの破片を覆せて

おいた。五日ばかりたってからであったか、おあったガラスの内

側に水滴がいつぱいついていて、そばに寄るとさわやかな植物の香

りがした。まだ芽は出ておらず、少しひびが入った土はわずかばか

りもたげられていた。私はこれを見て生命の息吹きを感じた。目の

覚めるおもいでであった。

その後いく種類かの草花の種をとりよせては苗を育て、小さな花壇ではあったが花の色の美しさに

そして香りの素晴らしさにどれほど無為の日々がなぐさめられた事か。

やがて私は健康をとりもどした。そして機会があつて師を得、花を描く事を学んだ。水墨が基調とな

る南画である。師は田能村竹田直系と言われる竹邨に師事された降

旗望岳先生だが、仕事のかたわら習う事であるから腕前は遅々とし

て思わしくはなかったが、とにかく習い続けて二十六年になる。だ

が南画について云々するほどの力はない。しかし少なくとも描く楽

しみは覚えた。がその恩師も、もはやこの世の人ではない。

今はわずかなりとも庭に花を育て、絶えず何らかの花を見る事が

できるように工夫しては毎年季節が変るごとにそれぞれ美しいと

感じ、ひまをみつめてはその美しさを描くことにしている。

——この稿を感謝の意をこめて  
恩師故降旗望岳先生に捧ぐ——

八木。

欠席(敬称略)

小俣、野沢、平瀬、森川、柳瀬。

庶務報告 (久保田常任理事)

6月23日 インドシナ難民を助ける会へ四、四八三円のカンパあり、日本女医学会として寄付する。

6月26日 常任理事会、理事会を行なう。

6月29日 中国婦人歓迎委員会および韓 秋芳氏の送別会に三神

会長出席する。

6月30日 厚生省へ昭和56年度会

務報告、会計監査報告、定時総

会議事録、役員名簿、役員就任

承諾書、役員履歴書を提出する。

総会欠席支部へ支部助成金を送

る。

7月5日 厚生省へ昭和57年度事

業計画案を提出する。

7月7日 医師国家試験合格者へ

当会入会のお誘いをする(五五

五名)。

7月9日 学位取得者へ当会入会

のお誘いをする(一〇〇名)。

7月14日 インドシナ難民を助ける

会へ三、〇〇〇円のカンパあり、日本女医学会として寄付する。

7月15日 国連NGO国内婦人委

員会総会へ山崎副会長出席する。

7月16日 新役員の登記完了する。

報告事項

一、前会長龍知恵子先生ご遺族より

葬儀の礼状あり。

二、東邦大学医学部鶴風会より役員

就任の挨拶あり。

会 員 動 静

三、NHK厚生文化事業団よりチャリティー収入の報告あり。  
 四、世界身体障害芸術家協会より寄付金の礼状あり。  
 五、国立婦人教育会館長縫田暉子氏退任および志熊敦子氏就任の挨拶状あり。

山梨支部 早川操子 保坂春子  
 野崎恵子  
 神奈川支部 堀内久仁江  
 愛知支部 北村楨子  
 新潟支部 神田敬子  
 兵庫支部 田中弘子 岡本のぶ子  
 和歌山支部 井関富美子  
 岡山支部 山下佐知子  
 長崎支部 鶴 津多子

植田悦子  
 兵庫支部 萩野由美  
 広島支部 岡田恵子  
 佐賀支部 町井まり子 小柳洋子  
 退会会員(敬称略)  
 北海道支部 佐藤由香子  
 若杉幸子  
 青森支部 町田和幸 奈良 京  
 秋田支部 池田和子 中村淑子  
 福島支部 福永光子 小泉みよ子  
 群馬支部 菅野千枝  
 栃木支部 佐藤菜穂子 山本栄子  
 茨城支部 大内たか  
 千葉支部 白幡八重子 上原巨子

都下支部 中島和子 船木豊子  
 神奈川支部 岩崎恵美 松岡春江  
 愛知支部 岡 秀子 小川禮子  
 長野支部 藤原薫枝  
 新潟支部 近藤留美子  
 三重支部 松下美代 渡部としを  
 大阪六支部 布引圭子  
 京都支部 牟礼幾代子  
 大樋八重子  
 徳島支部 河野益子  
 高知支部 中島芳代  
 福岡支部 徳安雪子  
 大分支部 阿南章子  
 会員物故者(敬称略)  
 訃報に接し哀悼にたえず謹しんで

ご冥福をお祈りいたします。  
 山形支部 後藤久子  
 宮城支部 大川環姫  
 千葉支部 梶原寿栄  
 今西英恵  
 渋谷支部 峯 信  
 杉並支部 中村きく子  
 千代田支部 龍 知恵子  
 中野支部 崎谷千恵子  
 神奈川支部 佐藤雪子  
 愛知支部 蛭川つや  
 梅沢イエ

一、日本女子社会教育会より昭和57年度「婦人教育研究集会」の開催について。  
 二、日本公衆衛生協会石橋卯吉氏葬儀および告別式の連絡あり。  
 会計報告 (丸山常任理事) 承認  
 六月分別紙どおり 承認  
 以上 久保田くら

自然退会復活者(敬称略)  
 宮城支部 菅野喜与  
 福島支部 兼谷 啓  
 大田支部 渡辺順子  
 江東支部 長田智香  
 世田谷支部 中山幸栄  
 愛知支部 寛 香代子

集 記  
 編 後  
 台風二十一号もやつと、過ぎ去ったが、未だカラットした秋晴れにならない。夏から急に初冬が訪れたようである。愛知支部だよりの「伊豆の秋」はほんとうに秋の一滴旅行を皆さんで楽しまれ、また「ベルナール・ピュッフエ美術館」を見られた由、素晴しかったことでしょう。事業部だよりによると、十五年以上もの長い間、各科の婦人と子供の無料健康相談をお忙しい中を、毎月一回、愛知支部の日本女医学会が、地域医療のため協力され、日本公衆衛生協会長賞を得られたことはまことに名譽なことです。  
 長崎県をおそった豪雨(最高一八七ミリ)による被害は著しく、多く

の人命を失い、家屋を流され大災害であり、テレビを見ていて、お気の毒であると痛感し、心からお見舞します。このような中で長崎県の支部の諸先生には比較的被害が少なく、不幸中の幸と思えます。いろいろ救急処置、物資不足等ご苦労多きことと推察致します。  
 南画のご紹介で、日高歐子先生は、日本医家芸術展へ毎年出品されています。竹翠会南画展に出品された「牡丹」の絵は素晴しく、南画の魅力にとりつかれたと井上柳子先生はほめたたえています。  
 十月一日、オーストラリアから、国際女医学会会長レッド・シヨウ先生が日本を訪問され、佐野アヤ子常任理事宅へ泊り、十月二日、ホテルオークラ「山里」で理事有志で歓迎会を開きました。詳細は広報部からそ

のうら報告があると思います。先きに国際女医学会の募金募集、物品募集を致しましたところ、だいぶ集まりましたが、なおよろしく願ひします。  
 十月十二日、本部で編集会議を開きました。今回九十二号から株式会社社金剛出版で印刷をすることになりました。(平瀬)

新評議員(敬称略)  
 渋谷支部 脇田昌子  
 千代田支部 宮川美智子  
 長崎支部 後藤スミ子  
 新予備評議員(敬称略)  
 秋田支部 金子ミサラ  
 渋谷支部 小林和江  
 長崎支部 鶴 津多子  
 入会会員(敬称略)  
 栃木支部 渡辺千絵子  
 千葉支部 加次井育子 木村キン  
 渋谷支部 小林和江  
 新宿支部 吉岡和子  
 杉並支部 小山生子 佐藤葉子  
 文京支部 石川洋子  
 目黒支部 野間津夏子  
 都下支部 石橋純子

新卒入会会員(敬称略)  
 青森支部 川村加寿子  
 山形支部 芦沢圭子  
 埼玉支部 榎本直子 角 ゆかり  
 伊藤理恵  
 栃木支部 谷口恭子 梶谷ゆかり  
 小笠原真澄  
 茨城支部 前沢世津子 真藤洋子  
 千葉支部 吉岡敏江  
 北支部 武井紀子  
 渋谷支部 金子まこと  
 新宿支部 田 美乃子 武井弥生  
 後藤田陽子  
 杉並支部 笠井美知子  
 世田谷支部 内田恵美子  
 吉沢文子  
 都下支部 岡田千穂子  
 神奈川支部 有働尚子  
 愛知支部 鈴木ありさ 山名知子  
 大阪八支部 八木千賀子

昭 和 57 年 10 月 20 日 印刷  
 昭和 57 年 10 月 25 日 発行  
 編集人 八 木 貞 子  
 発行人 日 本 女 医 会  
 発行所 東京都渋谷区渋谷 2-1  
 8-17 青山宮野ビル  
 社団法人 日本女医学会  
 TEL (498) 〇五七一  
 製作 東京都文京区水道 1-5-16  
 株式会社 金剛出版

のうら報告があると思います。先きに国際女医学会の募金募集、物品募集を致しましたところ、だいぶ集まりましたが、なおよろしく願ひします。  
 十月十二日、本部で編集会議を開きました。今回九十二号から株式会社社金剛出版で印刷をすることになりました。(平瀬)

昭 和 57 年 10 月 20 日 印刷  
 昭和 57 年 10 月 25 日 発行  
 編集人 八 木 貞 子  
 発行人 日 本 女 医 会  
 発行所 東京都渋谷区渋谷 2-1  
 8-17 青山宮野ビル  
 社団法人 日本女医学会  
 TEL (498) 〇五七一  
 製作 東京都文京区水道 1-5-16  
 株式会社 金剛出版